

一般

質問

救命救急の医学部併設について

質問 県央の救命救急センター併設基幹病院に、大学の医学部を併設すべきという運動がある。今後のスケジュールを左右しかねない大きな問題だが、市長はどう受け止めているのか。設置を訴え始めてすでに6年が過ぎた。あと何年以内に設立という目標を掲げられないか。

答弁 県が労働者健康福祉機構と新潟県厚生連に病院再編への参画について、検討を要請している。両経営主体が大きな判断をしなければならぬ段階にあって、大学医学部設置の大きな課題をやりこませなければならぬと好ましくない。基幹病院の設置を遅らせる要因にしかならず、到底、容認できない。

県央基幹病院実現に向けて最も重要な局面を迎えている。乗り越えることができれば、自然と道は開かれ、スケジュール感も見通せるものになるのではないか。

修学旅行について

質問 小中学校の修学旅行費は一般と比べて高すぎる。交通費や宿泊費などはスケールメリットを生む一括契約などを検討すべきだ。

答弁 各学校の状況を踏まえるなかでコスト削減に向けたいろいろな方法があるかどうか、検討したい。

三条市の活性化について

質問 来年3月に期限が切れる中小企業金融円滑法は、中小零細企業の倒産が心配されるが、三条市としての対策を考えているのか。

答弁 三条市としては、必要に応じて中小企業振興資金、小規模事業者振興資金等で市内企業の経営安定、金融の安定に努め、引き続き金融機関と連携し支援を行っている。

地場産業の振興と人口流出の対策について

質問 地場産業の衰退による企業の撤退や人口の流出に歯止めがかからない。少子高齢化や人口流出に伴い三条市の予測では平成28年度の人口は、10万人を割り込むと予測している。地場産業の振興と人口流出の要因は何か。

答弁 人口の流出は、若年労働者層が非常に大きなシェアを占めている。最大の理由は、職業となつている。地域経済の活性化に関して産業構造そのものの変換を図っていく。

現行の入札制度の問題点について

質問 現行の入札制度は、腕力のある企業、倫理観のない会社が有利に働いているが改正はどうか。

答弁 今現在は制度の改正を行う考えはない。

住宅リフォーム助成制度の創設について

質問 地域経済に与える影響を、新潟県産業連関表を使って試算すると、三条市が行っている成長産業分野進出支援事業では波及効果は補助金額の2倍にしかならないが、住宅リフォームは8倍の波及効果があることがわかる。創設を検討すべきではないか。

について。

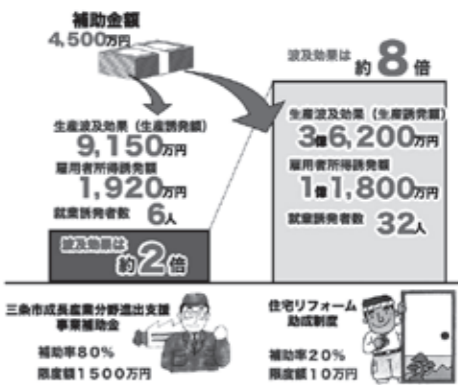
一連の経緯を踏まえれば、公有財産として活用されると考えるのが普通でないのか。今回、突然の民間に対する貝喰川の占用許可や払い下げの約束などは、不自然であり不可解である。今までの信頼関係を無にする決定であると思えるがどうか。

答弁 貝喰川廃川敷の整備は、平成22年の排水樋門の完成に伴い設置した検討会に、県が廃川敷の地盤が軟弱なため現状を踏まえた遊歩道などのイメージ図が示されていたものである。今回河川への浄化槽設置の占用許可に伴い、県から意見照会があり、方針もある程度定まってきたと判断した。その上で許可に對し支障があると県に明言した。しかし、必要最小限の範囲であることから、許可したと聞いています。



貝喰川排水樋門

答弁 財政規律として手を出すべき分野なのかどうか、しっかりと把握しなければならぬ。



住宅リフォーム波及効果

子供の医療費助成制度について

質問 6月定例会以降、県内の各自治体で引き上げが行われた。三条市は他市と比べ大きく引き離された感がある。引き上げの検討をすべきではないか。

答弁 市の財政状況が変わった訳ではない。拡充は全く考えていない。

施設使用料の減免基準の見直しについて

質問 全額免除を廃止するようになり、緩和する考えはないのか。

答弁 全額免除の利用者には7割の減免をする。ご理解願いたい。

大津市中学校2年生いじめ自殺事件をめぐる問題について

質問 市教育委員会と学校側の露骨な隠蔽に次ぐ隠蔽行為、なぜそのような思いか。

答弁 事情を把握していないのでコメントできない。当該中学生の心のサインを見逃さず寄り添う努力などが必要と痛感している。

三条市観光基本計画の観光振興について

質問 5.5湯らじろウツッオラーテのビクター意識調査では高級料理を望んでない。この施設は誰の提案か。メニューになぜウーロン茶が無くのか。

答弁 ビクター調査よりも経営陣のサルタントの提案を取り込んだ。ウーロン茶の話は根も葉もないのであり、断じてない。風評被害に本当に火をつけるような話だ。

経営戦略プログラム経営理念の安全労働衛生について

質問 正規職員の削減、時間外勤務の慢性化による休暇者の現状はどうか。安全衛生委員会は月1回以上開催の規定だがどうか。

答弁 23年度休暇者は療養49人、精神疾患13人、年度途中退職4人である。委員会は庁舎ごとに年2回から4回実施。規則は努力義務であり、

一

鳥獣被害対策について

質問 今年も猿による被害が出ています。今までの対策は効果があったのか。

答弁 地域ぐるみで取り組んでこそ効果があるもの。地域への啓発活動に努めていく。



人里近くに出てきた猿

農作物への野生鳥獣被害対策について

質問 鳥獣被害防止特措法が改正された。課題は被害対策実施隊の人材確保だが、実施隊設置の考えはあるか。

答弁 さまざまな方策で被害の軽減に取り組んでいる。実施隊の設置については、関係機関と協議し検討したい。

複式学級の解消について

質問 懇話会での意見をもとに当局の考えが示され、大浦小は推移を見守る。

豪雪地域における利雪、克雪について

質問 県が地中熱、雪冷熱を利用した住宅普及を図るため、実験や調査に乗り出した。取り組みたいと意欲のある人があれば支援する考えはあるか。

答弁 県の取り組みは承知している。取り組み状況を見守りたい。より使い勝手がいい手続きなど、内容について県と協議してきました。

貝喰川樋門排水事業に伴う廃川敷の整備について

質問 平成22年8月に地元自治会は、県や市の指導の下、貝喰川廃川敷利活用検討会を設置した。県の示した方針を受けて昨年11月には市長の案内で県知事に貝喰川河口の位置変更により生じた廃川敷は、ゴミや泥がたまり悪臭など不衛生なことから盛り土など、有効利用が可能な整備を要望し